

# 牧草と園藝



# 昭和47年度決定の新品種

## トールフェスク、ホクリョウ（北海1号）

北海道農業試験場、草地開発第二部において、明治あるいは大正年代より導入され場内に定着した自生のトールフェスク 500株のなかから選抜を重ね、最終的に、27系統について任意に交雑させ採種された合成品種である。

### 特性概要

北海道、東北、北陸の積雪寒冷地帯で高収を示し、標準品種のケンタッキー31にくらべ約20%の増収が期待できる優良系統である。主要特性は次のとおりである。

イ、出穂期はケンタッキー31にくらべて北海道では約6日、東北地方では15～20日、九州では20～25日もおそい晩生の系統である。なお、出穂数がかなり少なく、放牧地の管理上、きわめて有利である。

ロ、病害に対して抵抗性強くとくにトールフェスクでもっとも被害の大きいものの一つである網斑病にすぐれた抵抗性を示す。また雪腐れ病にも強い。

ハ、冬枯れには強いが、夏枯れに弱く、夏枯れの激発地帯での永続性は劣る。

ニ、草丈高く、かなり上部まで葉をつける多葉性の品種で、葉も大きい。

ホ、幼苗の草勢がすぐれているため、定着が容易である。また、晩生でありながら、早春の草勢がすぐれ、早く放牧を開始することが可能であり、とくに春季のDDM、TDN収量が高い。また出穂期に利用した場合、DCP収量はケンタッキー31の50%近い増収をあげる例も示されている。

### 利用上の注意

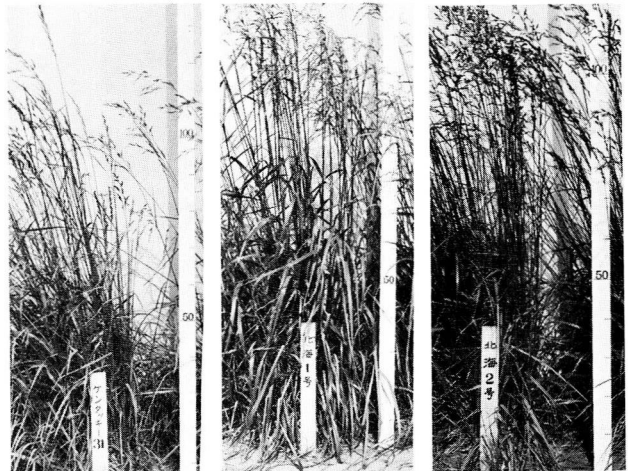
北海道、東北、北陸の積雪寒冷地帯全域および関東以南の標高 500 m あるいはそれ以上の山間傾斜地が適応地域である。主として肉牛あるいは子牛育成用の放牧地に適する。とくに関東以南の標高の高い所で従来の品種では、冬枯れを起こす危険のあるような場所にも適応する。なお、夏枯れには弱いので、暖地の低標高草地での利用には不向きである。

ケンタッキー31フェスクにかわり寒さに強い晩生の優良品種として奨励されることになった。

### 収量成績

1969～1971

地域	試験場	試験所	刈取回数	K31Fを100とした指数		K31Fの収量 (kg/10a)
				ホクリョウ	ヤマナミ	
北海道	天北根新札平	北見 釧路 得帆 幌 均	3	121.6	107.1	204.0
			3	115.6	100.8	190.2
			3	120.0	105.7	179.3
			3	125.5	119.9	192.9
			3	127.0	112.5	224.5
			5	108.4	106.5	180.0
平均			119.7	108.8		
東北・北陸	青山高富平	森形田山均	5～7	108.1	107.0	288.3
			5	140.2	117.9	103.4
			5	127.7	115.5	(900.2)
			5	104.4	100.1	(1,406.0)
			5	120.1	110.1	
関東	那群茨山平	須馬城梨均	5	94.5	107.8	(931.2)
			6	78.2	103.1	296.3
			7	90.6	103.1	376.3
			5～6	111.7	115.0	374.4
			5～6	93.8	107.3	
四国・九州	香大熊熊鹿平	川分本本本 児島均	6～7	97.8	112.3	323.1
			7	89.8	102.2	(1,982.4)
			a 5～6	118.5	119.8	255.6
			b 6	95.4	123.5	194.4
			7～8	100.2	98.9	366.4
			99.1	112.2		
			平均			



ケンタッキー31フェスク

ホクリョウ

ヤマナミ